

テレビ静岡では番組の適正化を諮るための審議機関「番組審議会」を設けています。

このページでは番組審議会の議事の概要をお知らせしています。現在、テレビ静岡では県内在住の8名の方に審議委員をお願いしており、毎月1回（2月、8月は休会）番組について、ご意見を伺い、今後の番組制作の参考にさせていただいています。

テレビ静岡 平成29年7月度 番組審議会概要

平成29年7月13日（木）

14時00分～

テレビ静岡本社 3階 会議室

— 出席委員 —

高木 正和(委員長) 戸崎 文葉(副委員長) 石田 美枝子
木村 精治 上柳 正仁 齋藤 照安 中野 友章 瀬口勇一郎

— 議 題 —

番組名 「9. 2キロ その先に」
FNSドキュメンタリー大賞ノミネート作品

放送日時 平成29年5月28日（日）13時30分～14時25分

制作著作 テレビ静岡

— 番組内容 —

富士市内の吉原駅から岳南江尾の10駅を結ぶ9. 2キロの鉄道が「岳南電車」だ。そもそも「岳南鉄道」として親しまれ製紙工場の輸送を担ってきたが、産業の縮小から年々赤字が拡大、平成24年に貨物輸送が廃止され存続は絶望的な状況に追い込まれた。しかし、市民の足を守る主旨が認められ、公的資金が投入される新しい事業体に生まれ変わった。とはいえ、経営の合理化と市民の利用促進が事業継続の絶対条件であり、若い鉄道マンたちが「夜景電車」、「ジャストレイン」、「ビール電車」など趣向を凝らした企画を実施しつつ、“市民が誇れる鉄道”を目指して汗を流す日々の姿を追うことで、ローカル赤字路線の在り方を考える。

— 審議概要 —

- ◎構成全体がしっかりして観やすく、心温まる（ハートウォーミングな）作品だった。
- ◎丁寧に人の優しさが描かれた、ドキュメンタリーの王道的番組だった。
- ◎岳南電車の課題や鉄道マンの苦悩、現状と取り組みを興味深く観ることができた。
- ◎富士山の見える景観や車窓からのシーン、また、利用促進を図る市民の表情など、カメラの映像やアングルがよかった。
- ◎岳南電車は市民のプライドを高める起爆剤であり、番組に感動して涙が出た。
- ◎中心的に取り上げた鉄道マン（本多氏）は素朴で好感を持てた。「お金がないのなら、あるものを最大限に活かす」など、生き活きとした言葉が心に響いた。
- ◎「工場夜景」や「子供たちの電車体験」の企画がよかった。
- ◎産業と結びつきの深い企業城下町が産業とともに衰退する現実は、長崎の本多氏の故郷の例と合わせて理解しやすかった。
- ◎ラストの子供たちがいる光景は、タイトルにある“その先に”を想像できてよかった。
- ◎会社の経営方針に詳しく触れなかったことについて、「もっと掘り下げて欲しかった」と、「報道的作りではないので、あえて触れない表現でよい」と意見が分かれた。
- ◎街づくりの視点から、課題を解決する提案を入れ込められればよかった。
- ◎鉄道会社だけではなく、行政や、他の交通機関、地域住民の理解など、交通インフラとして問題を考える方向性も必要だったのでは。

以上、制作部門にフィードバックし、今後の番組作りで参考とさせていただきます。

次回の番組審議会は平成29年9月14日（木）の予定です。